

メープル 管理者 角森 佐岐子



世界中が新型コロナウイルスの脅威に揺れ動く中、新しい年度が始まりました。いろいろと不安なことはありますが、少し上を向くと今年も変わらず桜が美しく咲いていて、ひと時の安らぎを感じます

さて、今年度もグループホーム<メープル>を担当することになりました。よろしく願いいたします。



昨年度はメープルでもたくさんの出来事がありました。私たちのホームでは初めて古希のお祝いをすることができました。また、念願の一人暮らしに移行した人や、あるホームでは新たにワンルームを借り入れ、よりプライバシーが守られたホーム生活を始めた人もいました。利用者同士で結婚を希望する声も聞かれるようになりました。

このような一見個人に起こった出来事も、実は周りの利用者を少なからず刺激し、様々な反応を見て取ることができました。同年代の人なら社会生活の中で経験していることを、彼、彼女らは経験していないことを再確認する瞬間でもありました。「地域で当たり前暮らし」ということは奥深いなと思います。

そんな日常に、予想もしなかった今回の新型コロナウイルス。手洗い、うがいを繰り返し伝えるも、十分に実行できている人は少ないのが現状です。世話人が見守るホーム内はまだしも、就労先では声をかけてくれる人もいないかもしれません。不要不急の外出を控えるようにの呼びかけも、ルーチンで動く利用者にはストレスでしかありません。

一日でも早く安全で安心した暮らしを取り戻せることを願いながら、今年度も職員が一丸となって“今すべきこと”に取り組んで参ります。

福島育成園 管理者 長谷 弥朋



《安心・安全・安らか》
昨年度末より、新型コロナウイルスの感染拡大に対する対応に追われ、気がつけば新年度を迎えていたことに驚きを隠せないのが、今の率直な思いです。福島育成園の管理者に再任され



ました長谷弥朋です。

平成11年に福島第一育成園(入所施設)・福島第二育成園(通所施設)が設立され、私は入職6年目で福島第二育成園に配属と

なりました。利用者・ご家族の皆様や地域の皆様を支えていただきながら11年程この福島でお世話になりました。

その後、5年ほど港育成園で勤務した後、平成26年から入所と通所が併設になった福島育成園に再び勤務となりました。平成5年に育成会に入職させていただきましたので勤務年数27年の内、通算16年間福島育成園で勤務させていただいております。

福島育成園で勤務した16年の内に様々なことがあり、楽しいことも沢山ありましたが、地震や台風などの自然災害やインフルエンザの蔓延など大変なことも沢山ありました。しかし、福島育成園のスタッフに支えてもらいながら、何とか乗り越えることが出来たと思っております。今まさに猛威を振るっている新型コロナウイルス感染に対しても、スタッフ一同協力し、意見を出し合いながら出来る限り安全に乗り越えて行きたいと思っております。

今年の初心表明の一字を「安」としました。法人理念にあります「障がいのある方が安心して心豊かにすごせるように」の中にも含まれております、安心安全の「安」は、どの方が生きていくにも必要だと思います。福島育成園に関わる方々に少しでも感じていただければと考えています。利用者の方やそのご家族の方だけでなく職員も新型コロナウイルスに対し不安なことと思います。微力ではありますが、少しでも皆様が少しでも安心して安全に、また、安らいだ気持ちで過ごしていただけるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ビーンズ 管理者 瀬川 慶



今年度もビーンズ管理者を拝命しました瀬川慶です。

当事業所におきましては、昨年度末に2つの住居、定員13名に事業体制を改めさせて頂きました。男性10名と女性3名が福島区内で生活を送られています。日中の活動

は生活介護や就労継続支援B型、一般就労の方もおられます。平均年齢は54歳です。